

新造船あおい就航式典 - 神戸三宮フェリーターミナル -

▲▽神戸発第1便就航式典で乗組員に花束贈呈▽▲

神戸～小豆島～高松航路を運航するジャンボフェリー株式会社の新造船「あおい」が、10月22日の8時30分神戸港発を第1便として就航した。出港前、本船のデッキで就航式典が開催され、濱脇一伸船長、毛利裕元機関長、木本政治一等航海士の3人が記念の花束贈呈を受けた。

また、式典に先立ち本船ブリッジで「あおい」のこれからの活躍と航海安全を願い、浦隆幸関西地方支部長から濱脇一伸船長へ花束が贈呈され、乗組員を激励した

神戸—小豆島—高松

ジャンボフェリー株式会社

新造船「あおい」

瀬戸内海の船旅に絶景テラス

光のテラス

風のテラス

海のテラス

空のテラス

船内モチーフ

大型化

安全性と省エネ性を向上

▲輸送力と快適性の向上

▲燃費の大幅な向上

▲安全性の向上

▲感染防止対策の強化

▲大規模災害時の対応

船名の由来 「あおい」

地中海に負けないくらい美しいとされる瀬戸内海をモチーフに「碧い海、蒼い空、

瀬戸内海の船旅と物流を担う

1969年11月に神戸～高松間の運航を開始し、1995年の阪神淡路大震災では、船の浴室を被災住民に開放し「お風呂シップ」としても活躍。海上物流面でも神戸港の復興・発展に欠かせない役割を担ってきた。

旅客輸送・貨物輸送に従事する

操舵室の真上のフライングブリッジ 右舷の外にせり出した構造で、ここから瀬戸内海と島々を望む景色は圧巻

最前方のフォワードデッキ

宙にせり出したデッキに、ホワイトイオン泉の足湯が設置されている最上部にある天然ウツの屋上テラス

小豆島を象徴する「オリーブ・^{ひしお}棚田・石・醬」

約5200総トン数輸送力強化、且つ、客室空間を拡充

現行船より約1.4倍に大型化。輸送力も3割アップしたほか、客室スペースも拡大した。

日本初となる、浅喫水・全面無柱フルフラット甲板対応型の2サイクル1機1軸推進システム、高速離着岸デバイスなどのパッケージ化により、大幅な燃費向上を実現した。

新世代の損傷時復原性基準に完全適合している。

高い換気能力、深紫外線殺菌デバイスを備えた空調システムを業界で初めて導入した。

神戸市、香川県小豆島町と協力協定を結び、災害時に負傷者や避難者を被災地から避難地へフェリーで搬送する「災害時支援船」としての役割を担う

青い風」の色彩をイメージして名付けられたもの。ジャンボフェリー(株)が所属する加藤汽船グループの戦後復興時期を支えた貨客船「葵丸」への想いも込められている。

穏やかな瀬戸内海をイメージしてデザインされた青と白のツートンカラーの船体は、碧い海原に紺碧の曲線が映え、船首、ファンネル、船尾の吉数の縞模様は、海を通じて深められた人と文化の交流を「しま」で表している。

「海員だより」